

第2回鶴岡市文化会館利活用会議

日時：平成30年2月16日（金）
18時30分～

場所：荘銀タクト鶴岡 小ホール

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 報 告

(1) 第1回会議の概要について

4 協 議

(1) 運営主体のあり方について

(2) リピーターを増やす仕組みづくりについて

(3) 文化会館の問題を考える市民有志の会からの意見書の送付について

5 その他

6 閉 会

第2回 鶴岡市文化会館利活用会議 出席者名簿

■ 委員長

(敬称略)

氏 名	所属等	区分
やまぐち あきら 山 口 朗	副市長	

■ 委員

(敬称略)

氏 名	所属等	区分
さか かしや 章 加 叔 也	公益社団法人 全国公立文化施設協会 アドバイザー 有限会社 空間創造研究所 代表 文化会館管理運営実施計画 総合アドバイザー	専門家
おろ した よしゆき 太 下 義 之	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター長	専門家
はせ せ谷 かつひろ 長 谷 川 浩 二	株式会社 荘内銀行 常務執行役員	ネーミングライツ パートナー
うえ の ぶ ぶ 上 野 由 部	黒川能の里・王祇会館 館長 公益財団法人 黒川能保存会 業務執行理事	関係機関・団体等
い とう よしき 伊 藤 吉 樹	庄内地区高等学校文化連盟 副会長 山形県立鶴岡中央高等学校 校長	〃
おが ぎ ますや 岡 崎 雅 也	公益社団法人 鶴岡青年会議所 専務理事	〃

■ オブザーバー

氏 名	職名・所属等	備考
ひがし やま てるこ 東 山 昭 子	鶴岡市芸術文化協会 会長	
こ ばやし たけお 小 林 健 郎	鶴岡市芸術文化協会 副会長兼事務局長	

■ 事務局

氏 名	職名・所属等	備考
か とう しのが 加 藤 忍	教育長	
いし つか けん 石 塚 健	教育部長	
すず ぎ あり 鈴 木 晃	社会教育課長	
さ とう かつこ 佐 藤 嵩 子	〃 文化主幹	
い とう とも やす 伊 藤 智 康	〃 芸術文化主査	
い とう まさ ひろ 齋 藤 正 浩	〃 芸術文化係長	
はら だ たか あきら 原 田 孝 昭	〃 芸術文化係専門員	

第1回利活用会議論点まとめ

- 当面は直営での運営
 - 経費や必要人員を把握し、指定管理に移行すべき
 - 指定管理者に引き継ぐための土台作りが必要
- コスト意識をもった運営
 - 公共施設であってもコストを抑制する必要
 - 運営主体ごとのコスト比較が必要
- 芸文協はタクトのパートナー的存在
 - 芸文協は、タクトを使いまわす団体となることが必要
 - 運営主体になると自らへのメリット付与は困難となる
- リピーターを増やす仕組み
 - 駐車場が課題で、シャトルバス等の仕組みが必要

運営主体別人件費比較表

(千円)

	鶴岡市芸術文化協会	芸術文化振興財団 【新設】	鶴岡市開発公社 【旧指定管理者】	直営 (H29ベース)
館長	1名 (新規)	1名 (新規)	1名 (新規)	1名
事務局長	1名 (新規)	1名 (新規)	1名 (新規)	1名
総務	3名 (新規3)	3名 (新規)	3名 (既存兼務)	3名
広報	3名(事業兼) (既存1・新規2)	3名(事業兼) (新規)	3名(事業兼) (新規)	3名 (うち委託1)
事業	5名(広報兼) (既存3・新規2)	5名(広報兼) (新規)	5名(広報兼) (新規)	5名 (うち委託3)
合計	13名		13名	13名
	44,096		37,312	74,589

※1. 人員数は、平成29年度の人員体制を勘案し設定。

※2. 直営以外の人件費単価は、国の統計調査結果によるその他法人の単価を適用。

※3. 開発公社総務部門の人件費は、既存職員の兼務によるものとし、単価を1/3と想定。

※4. 直営の人件費は、平成29年度人員体制を基に通常年ベースで想定する13名で算定。

文化会館運営に係る全体イメージ図

